

拔 萃

米國に於る本年度の製鐵工場に就て

(The Iron Trade Review. Jan. 1, 1920.)

K O 生

一九一九年米國に於ては新設製鐵工場の必要に迫られしと雖も遂に當年の記録に洩れたる鎔鑛爐、平爐及壓延工場等は目下着々竣成せられて一九二〇年に於ては非常なる多數に達すへし。

一九二〇年に於ける鋼生産能力豫想は前年に比して少額なり、然れとも平爐は二五基にして前年に於けるより二基現在建設中、多く其一ヶ年の生産能力は前年より四七九、〇〇〇噸少數なり、されとも、若し二重操業をなす二〇〇噸爐の使用せらるゝ時は以上双方の數字は無効に歸し、一九二〇年に於ける生産額は前年に比して大なる生産能力を現はすへし。

一九一八年米國に於ては平爐一二基建設せられ其製鋼能力は一、〇〇五、〇〇〇噸なり、一九一七年の始めに於ては平爐九五基にして其生産能力は四、七九五、五〇〇噸なりき、然るに一九一六年の年初は爐數七四基にして推定生産能力は三、七五五、〇〇〇長噸なり。一九一三年以後竣成せられし平爐數、生産能力及全國の鋼塊生産能力總計は左の如し。

爐數

生産能力

全國鋼塊生産能力

年次

一九一九

二三基

一、八七一、〇〇〇長噸

五二、二〇〇、〇〇〇長噸

一九一八

三九

二、一九二、五〇〇

五〇、五〇〇、〇〇〇

一九一七	一〇一	五、四一三、〇〇〇	四八、五〇〇、〇〇〇
一九一六	一〇五	四、三〇〇、〇〇〇	四三、〇〇〇、〇〇〇
一九一五	四三	一、七五九、〇〇〇	三九、〇〇〇、〇〇〇
一九一四	九	五〇七、〇〇〇	三七、五〇〇、〇〇〇
一九一三	六二	三、一二〇、〇〇〇	三七、〇〇〇、〇〇〇

昨年完成せられし平爐數は二三基にして其一ケ年の生産能力は一、八七二、〇〇〇噸なりき、一九一八年に於ては三九基完成せられ其生産能力は二、一九二、五〇〇噸なりき。されば昨年は一九一八年に比して爐數に於て一六基、生産能力に於て三二一、五〇〇噸減少せり。

一九一四年以來製鐵業者は大なる固定平爐を使用せり、一九一四年に於て此新裝置の生産能力は各一基に付、一ケ年平均三八、〇〇〇噸の割合なりき。一九一五年一月一日、各一基の爐に對して平均四〇、九〇七噸の割合にして、一九一六年に於ては四二、五七四噸迄増加し、一九一七年に於ては四七、〇九七噸に、而して一九一八年に於ては平均の生産額五一、三八一噸の増加を示せり。昨年建設せられし新平爐は各一基に付、平均六四、四三七噸なりき。併し此數字は二重操業を適用せる二〇〇噸爐を包含せず。

一九一五年一月一日米國に於て一ケ年の鋼塊生産能力は約三七、五〇〇、〇〇〇噸と推定せられしか、同年内に新爐増設せられしを以て其生産額は三九、〇〇〇、〇〇〇噸となれり。以上新爐の活動の爲めに一九一六年に於ては四三、〇〇〇、〇〇〇噸迄膨脹せり。一九一七年に於ては五、〇〇〇、〇〇〇噸を超過せる能力を來し約四八、五〇〇、〇〇〇噸の生産額となれり。一九一八年に於ては二、〇〇〇、〇〇〇噸を超過せる能力にして全國の鋼塊生産額は約五〇、五〇〇、〇〇〇噸となれり。一九一八年に於ては平爐増設せられしを以て一九一九年十二月三十一日に於て全國の鋼塊生産能力は五二、二〇〇、〇〇〇噸と推定せられたり。一九一四年一月一日米國に於ける鋼塊生産能力推定は約三七、〇〇〇、〇〇〇

噸なりしか、其後六ヶ年に於ける生産増加は一五、二〇〇、〇〇〇噸即ち四一パーセントなり、此増加は主として戦時中多大の需要に依れるものなり。

一九一九年に於ては唯二基の鎔鑛爐建設せられ、一ヶ年の生産能力は三九六、七五〇噸と推定せられたり、此數字を過去十五ヶ年間新鎔鑛爐の生産額の統計に對照する時は第二位の最低年に相當す、一九一四年に於ては新爐の建設中止せられ、一九一八年に於ては九基の新鎔鑛爐活動せしを以て一ヶ年の生産能力は其前年より一、四二五、〇〇〇噸即ち三、五パーセント増加せり。一九一七年に於ては一四基の新爐を衝風せしを以て著しく生産を増加せり、一ヶ年の生産額は其前年に比して二、一八二、五〇〇噸即ち五、五パーセントの増加なり。一九二〇年に於て建設せらるべき鎔鑛爐は一二基にして其生産能力は一ヶ年一九〇、七五〇噸と推定せらる。一九〇五年より一九一九年の間、米國に於る新鎔鑛爐の各年銑鐵生産額を示せは左の如し。

年次	長噸	年次	長噸
一九一九	三九六、七五〇	一九一八	一、四二五、〇〇〇
一九一七	二、一八二、五〇〇	一九一六	五三〇、〇〇〇
一九一五	五三〇、〇〇〇	一九一四	無
一九一三	五五〇、〇〇〇	一九一二	一、〇〇〇、〇〇〇
一九一一	五六五、〇〇〇	一九一〇	一、七九四、〇〇〇
一九〇九	一九三〇、〇〇〇	一九〇八	一、一八八、〇〇〇
一九〇七	二、〇六五、〇〇〇	一九〇六	一、一三五、〇〇〇
一九〇五	一二九二、〇〇〇		

一九二〇年一月一日に於て米國鎔鑛爐の生産能力推定は四四、四〇〇、〇〇〇噸にして過去三ヶ年

に比して一一、一パーセントの増加なり。實際一九一九年に於る銑鐵生産額は約三〇、〇〇〇、〇〇〇噸にして一九一八年に於ては三八、四三七、四八八噸なりき。

一九一八年に於て副産物たる骸炭の生産額は二五、九九七、五八〇噸にして米國の骸炭生産額に對して四六パーセントなりき。一九一七年に於て此種燃料の生産は二二、四三九、二八〇噸にして次年に於るより一三、六パーセントの減少なりき。一九一八年に於てはビーハイヴ骸炭の三〇、四八〇、六〇五噸生産せられ全米國生産額の五四パーセントなりき。一九一七年に於る同骸炭の生産額は三三、一六七、五四八噸にして全米國骸炭生産額の六〇パーセントなりき。一九一三年に於るビーハイヴの生産額は三三、五八四、八三〇噸にして全國の約七二、五パーセントに相當せり。一九一八年に於る同骸炭の生産額は一九一〇年に比して約一八パーセント減少せるを知るなり。

一九一九年中壓延工場の建設せられしものは五〇箇所にして建設中のもの一六八箇所なり、又薄板工場の建設せられしものは合計二二箇所にして斯る盛況は從來の記録に無き所なり。蓋し近來自動車製造事業の著しき膨脹の反映と云ふへし、且又是等薄板の大量は事務所用家具、金屬條板、屋背用及エナメル生産物用として吸収せらるゝものとす。其他暖爐及農具機械製造業者も亦此薄板生産物の大なる需要者なり。凡ての品種に亘りて斯る薄板の大なる需要は年内の第四季即ち十、十一、十二の三ヶ月間に徴するも米國建國以來一九一九年を以て其最高需要額とせり。

一九二〇年米國東部に於ては二箇の大なる薄板工場の出現を見るへし、即ちベスレーム製鋼會社はスパッロース、ポイント工場に薄板工作場を建設すへし、又バルチモアに於る東部壓延工作會社も大規模の薄板工場を建設すへしと云ふ。從來ピッツバURGに於ては薄板工場無かりき、蓋し自動車、暖爐、エナメル生産物及金屬家具等の製造用として壓延生産物を適用せらるゝか爲めなり。

マホーニング溪谷に於ては本年一六箇所の薄板工場建設せらるへし、此地方には既に八二箇所の

薄板工場存在せしかは合計九八箇所となるなり。元來此地方は薄板生産額に於ては米國中第一位とす。本年六月迄には總ての工場の完成を見るに至るへきか、其曉には薄板生産額一ケ年一一〇、〇〇〇噸増加すへし、此地方に於る從來の年産額は四〇〇、〇〇〇噸なりしか、今後は五一〇、〇〇〇噸の生産となるへし。尙ほ共和鐵鋼會社は本年内にナイルス工場に壓延工作場を建設すへき計畫あり、同工場完成せらるればマホーニング地方に於ては更に五〇、〇〇〇噸の生産能力を加ふるを以て結局薄板年産額五六〇、〇〇〇噸となるへきなり。

棒鐵工場も亦薄板工場と同様好況を呈せり、一九一九年、自動車工業は棒鐵に對して大なる需要者なりき。又同年器具機械工業も殷盛にして此方面の需要は棒鐵製造業の歴史上最高額を示せり、又同年中鍛鍊事業に吸収せられし棒鐵噸數は前年に比して増加せり。此情況は本年に入るも依然として繼續すへきものと觀測せらるゝなり。

鐵鋼業に於る電氣爐は一九一九年中合計五三基建設せられ種々なるタイプを有して愈々盛況を呈せり、其多數は鋼鑄造業に關するものなり。一九一八年中建設せられしものは五四基にして、一九一七年に於ては九七基、一九一六年に於ては六三基、一九一五年に於ては三二基の新爐を建設せられたり。されは一九一五年一月より一九二〇年一月まで約三〇〇基の電氣爐か米國鐵鋼業の精鍊に對して増加せしものなり。

昨年中鎔鑄爐の新設せられたるものは二基なり、同年十二月中建設中に屬するものは一二基にして其生産能力は二、一九〇、七五〇噸なり。一九一九年中完成せられたる木炭鎔鑄爐は三基にして坩堝鋼及マツク棒の生産能加を増力せり。ニウジャージ州ウルスター製鐵所に於ては本年一月一一基の二重攪鍊爐を完成せり、之等のものは二四時間に付、五〇噸の生産能力を有せり、又ペンシルヴァニア州のヘンリー・デストーン會社にては昨年十一月三箇の三〇ポット坩堝爐を建設せり、之等のものは一

日二四噸の生産能力を有す。昨年中革新的記録とすへきものはペンシルヴァニア州のレバノン鐵鋼會社の建設に係る機械攪鍊爐なり、之は完成マツク棒鐵の生産目的なり。

以上の總括

一九一九年完成せるもの

一九二〇年建設せらるゝもの

七八三基

一〇九七基

骸炭爐

鎔鑛爐

二基

一二基

平爐

二三基

二五基

壓延工場數

帶及箍

一

二

棒鐵

一〇

六

ピレット

一

三

黑板

九

三六

ブルーミング

二

二

コールド、ミルス

一

一八

板

一

二

型鋼

一

七

薄板

二三

八三

ストリップ

一

二

筒及管

三

三

線索

一

二

電氣爐

五三基

不明